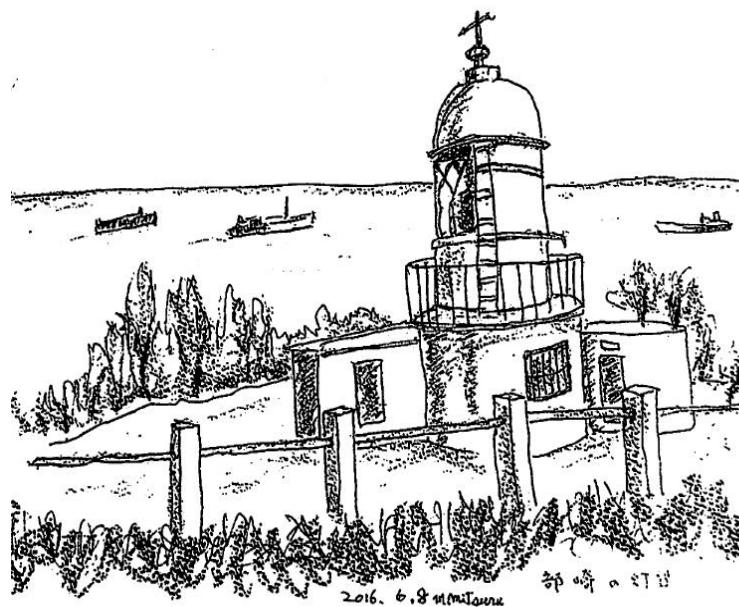


週報 2020年11月15日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙 3章 15節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2020年11月15日

オルガン：力丸勝子 師・ピアノ：赤松真佐子 姉

前 奏

開会の祈り 司会者 吉田 到 兄

信仰告白 使徒信条・標語聖句唱和

賛 美 新聖歌 18 「おお御神をほめまつれ」

今までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！

献身の祈り 小田和栄 姉

賛 美 新聖歌 392「主の愛の汝が内に」

聖書朗読 マタイによる福音書 5章 38~42節 山崎銀次郎 牧師

メッセージ 「強いられてではなく進んで」

祈 り

頌 栄 主の祈り

祝福と派遣の祈り

後 奏

交わりの三省

*互いに愛し合っていますか

*互いに赦し合っていますか

*互いに祈りあってますか

説教要約

マタイ5章38~42節

「強いられてではなく進んで」

やられたら、やり返す？

「目には目を歯には歯を」という言葉はハムラビ法典の中に記されている法律の一文と言われています。この「報復公平の法」は律法にも書かれています。この法は身分や性別によって加害者の罪が軽減されたり、支払うべき罰金や刑罰が軽減されないように定められたものです。（出エジプト21：22-25）

この「報復公平の法」は「やられたら、やり返しても良い」というものではありません。加害者からの不当な扱いを受けた人々が「復讐」に走らない為に設けられたものです。相手（加害者）がきっちりと罪を償う事で、自分（被害者）の立場を守る為にあるのです。律法の根底に流れているのは愛です。人の尊厳は神によって守られています。

私達は「不当な扱い」に悩まされる事があります。社会や学校等、集団生活の中で自分を傷つけた人を許せない時があります。しかし人を裁くのは人ではありません。神様です。私達の尊厳は神によって守られています。そしてその事が心から理解出来る時、相手の尊厳を守るようになります。律法の最も大切な掟は「互いに愛しあう」事です。私達は自分の立場を大切にするのと同様に、相手の立場も尊重する事が大切です。

本当に律法が示す事（イエス様の解釈）

今日の聖書箇所の鍵になる部分は「悪いものに手向かってはいけません」です。この文章がこの箇所全体を説明しています。しかしこれでは、今までの流れ「目には目を、歯には歯を」に逆らった言葉に見えます。イエス様の時代の律法学者達は、不当な扱いについて、「被害者自体が復讐する事は正しい」と教えていたようです。イエス様がここで語られている事はイエス様の律法の解釈です。

イエス様は更に4つの話を用いて「悪いものに手向かってはいけません」と教えています。この4つの話（右の頬～下着～1ミリオン～求める者～）に共通するポイントは、「相手の怒りや敵意に対して、強いられてではなく自発的に与えなさい」という事です。これは後の「自分の敵

を愛し、迫害する者のために祈りなさい」に通じて行きます。そこで、何を与えるのかというと、慈しみ、寛容、柔軟な心です。この教えに倣う人がキリストの弟子だとイエス様は言っています。

不当な扱いに対する復讐心は、実際の所、お互いの人間関係の中に残っています。だから人間関係の中で争いが無くならないのです。つまり私達は“不当な扱いの加害者”でもあり、“被害者”にもなり得るのです。イエス様の十字架は互いの人間関係に愛をもたらし、赦しを与える、正しい元の人間関係に留まらせて下さいます。律法の最も大切な掟は「互いに愛しあう」です。イエス様の愛を受けて、互いに愛する者へと導かれてまいりましょう。

受けるよりも与える人へ

前回の説教のおさらいにもなります。イエス様は進んで十字架の道へ歩まれました。人の渦巻く、敵意や怒り、憎しみ、悪意という渦に向かって進んで行き、全てを背負って十字架にかかりました。その歩みは罪人と共に歩み永遠の赦しを与えるというメッセージです。その歩みを共にする時、人は全ての敵意と悪意から解放され、愛と赦しの道を歩むように変えられて行きます。自分の正しい権利と主張、それら全てを主にお捧げする時、人は自由と解放を手にします。

パウロはその伝道生涯の中で「受けるよりも与えるほうが幸いである」と言いました。これはイエス様が言った言葉でした。そしてその事を彼は身を持って示し続けたと、エペソの長老達に言っています。（使徒の働き20:35）彼はこの後エルサレムに行き投獄されます。それも覚悟の上で進んで行きました。彼もキリストの弟子として、主の教えに倣う一人でした。主に全てを委ね、人々に福音を示す事を選んだ姿です。これが聖書が言う与える人です。

私達は聖書に従って愛せない、寛容を示す事が出来ない、寄り添う事が出来ない、そして要求に答える事が出来ないと思います。与える人になれないのです。何故なら十分に、もらっていない事に執着するからです。私達は、実の所、十分に満たされています。キリストの心が今、私の内に満ち溢れています。イエス様は私達と共に進み行かれます。だから私達は与える人になれます。共に主を見上げ、キリストに倣う者へと導かれてまいりましょう。